02 自主保全士検定試験　企業の取り組み事例

トヨタ自動車株式会社
グローバル生産推進センター
保全マネジメント・支援室　室長　**山本　孝司 氏**

自主保全は人づくりしくみづくり

自主保全活動って何？

この度は、昨年に続き団体賞を授与頂き、深く感謝致しております。ありがとうございました。タイトルにもある通り、自主保全活動は人材育成そのものだと思いませんでしょうか？清掃作業にて微欠陥、給油作業で適正適量、増締め作業で静的精度を知り、活動を通じてどんどん知見が高まっていきます。と同時に、自主保全活動は「仲間を大事に思い、仕事を楽にする」活動でもあります。トヨタの企業風土として面倒見というものがあります。目の前の状態を見て、それを家族の様に自分事として捉え自分ならどうするか考えます。作業を進める上での困り事を聞き、現場での状態を確認し、一緒になって改善を進めます。この面倒見の風土が自主保全活動をも支えています。自主保全活動を進めるための要素を4つ「人」「設備」「しくみ」「環境」の観点から人材育成との関係を整理して見てみます。

トヨタの自主保全活動

人への面倒見

自主保全活動を進めるための小集団活動は「人」とのつながりが重要で、この活動を通じてパーソナルスキルの向上につながります。メンバーの活動を引っ張るリーダーシップ、他部署との連携、調整などで必要となる折衝力を活動を通じ育んでいます。

設備への面倒見

活動対象となる「設備」に対し、自主保全活動を進めると安全感性や専門スキルの向上につながります。

安全な正しい設備の停め方、原理原則に基づいた点検における摩耗限度の理解や適正給油量など設備を正しく理解することができ、自分達の設備への愛着も湧いてきます。

しくみへの面倒見

メンバー誰もが活動を正しく理解し、個々として、組織として最大のパフォーマンスが発揮できるように活動を「しくみ」化します。その事例を紹介します。

機械加工系の多くの職場では、自主保全活動時間を午後の業務開始時に10分から15分程度放送の案内と共に作業を開始します。その活動を標準化するツールの１つが自主保全ボードです。

自主保全ボード（5W1Hで実施事項整理）

「教え教えられ」風景

全社統一の活動ボードはございませんが、やるべき点検項目の状況が見える化されており、各職場のニーズにあったフォーマットにて実施しています。また、ある製造課では、課の方針の中にオペレータの「自主保全人材育成サイクルの構築」を織り込み活動を推進しております。具体的には、6ヶ月から1年間保全職場で修行を行ない、自職場へ戻ってメンバーへ教える。更にその教えられたメンバーが修行へ出かけ、戻って来たら他のメンバーを教える。といった「教え教えられ」のサイクルを繰り返します。

環境への面倒見

自主保全活動が進展するための「環境」を整備することで誰でもやり易く参加しやすい状態を作ります。そのためには育成機会の確保が重要と考えております。

1つ目は、「正しい活動の知識」を得るために、自主保全士検定試験の取得を進めております。基本的には自己研鑽の位置づけですが、受験し易い環境を整えております。受験希望者が社内Webを利用し、自ら受験級や会場を指定するなど必要事項を簡単に入力できるよう工夫し、我々全社事務局が一括して申し込みができるようにしました。これにより受験者の把握が容易になり、管理工数も低減できました。

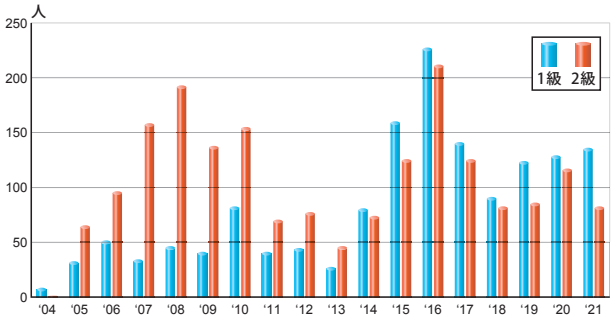
また、2つ目として「正しい作業」の修得ですが、これをできるようにするには保全部署との協業も欠かせません。保全部署から基本条件の維持の具体的なやり方を教えてもらいながら進めています。

3つ目は、作業にあたっては、その内容により「社内資格（指名業務）取得」が必要となる作業もありますので計画的な取得を進めます。

成績優秀者表彰式

自主保全士検定試験の成績優秀者を称えるため、今回全社レベルで社内優秀者表彰式を行いました。JIPM副会長・資格認定委員会委員長でもある河合おやじから表彰状とメダルを授与頂いた後、成績優秀者に対し「自主保全活動のリーダーとして職場をけん引していくように」と激励されました。また、優秀者からは「今回の受賞はモチベーションアップにつながる。今後も正しい知識を元に活動を継続すると共に後輩も続くよう職場内を活性化させていきたい」という心強い言葉がありました。

自主保全士検定試験合格者推移



社内成績優秀者表彰式

まとめ

人が育てば自ずとして活動は進みます。活動が進めば人が育ちます。
そんなサイクルが回るよう地に足をつけて、じっくり活動を進めたいと思います。